

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、近未来の医療に対応できる能力を備えた薬剤師の養成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

我が国の医療は社会構造の変化、医療技術の進歩、情報化の進展により大きく変化しつつあり、薬剤師の役割は質量ともに増大しています。しかしながら、現実には薬剤師は大変な供給不足のため、医療の改善が十分に進められない状況です。質の高い薬剤師を多数輩出してほしいという地域社会の要請に本連携取組は応えるものです。

―なぜこの3大学で連携することになったのですか。

3大学4薬学部が平成24年に共同で実施した「日本の薬学、四国の薬学部」と題する啓蒙活動が基礎となって、それぞれの強みを活かした共同教育に取り組むこととしました。具体的には、附属病院と高い研究実績を有する徳島大学、充実した文系学部の協力の得られる松山大学、他の医療系学部学科との連携により総合的な医療人養成が可能で、かつ、医療情報のIT化に取り組んでいる徳島文理大学の力を結集して、充実した薬学教育を展開します。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24・25年度は遠隔講義システムの導入をはじめ、共同教育に向けた体制を整備します。専門分野別のFD活動により、学士課程・大学院の教育力の向上を図ります。平成26年度からは、各大学が設置予定の附属薬局において、へき地医療、在宅医療や医療情報活用を含むモデル活動を共同展開します。また、予想されている東南海地震に対応できる災害対応薬剤師、治験コーディネーターや専門薬剤師の養成に取り組みます。取組の期間終了後も各大学の自己資金で継続していきます。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

遠隔授業システムの活用等により学士課程学生及び大学院学生が、多彩なカリキュラムを真の専門教員から学ぶことができるようになります。その恩恵を受ける学生は約3千3百人です。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思います。それがどのようなものですか。

学生の能動的学修支援など、教員の教育力の向上を図ります。大学院担当教員と大学院生（1学年約10名〜15名）の合宿方式による深い討論と複数指導教員制により、大学院生の研究能力を大きく向上させます。特に、連携機関と共に医療薬学分野の研究を充実させます。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

本取組により、学生は社会の要請・期待を強く意識するようになり、大学で学んだ知識を如何に地域に役立てることができると主体的に考え、行動できるようになります。成果は、就職先・大学院進学率の変容、特に僻地や災害関係に就職する薬剤師数の増加、海外留学する学生数の増加、四国の各薬学部における志願者数増加等の指標に表れると考えています。

ステークホルダーからのメッセージ

一般社団法人徳島県薬剤師会 会長

元木 宏

四国では高齢者医療、へき地医療や在宅医療の推進など、地域に貢献する質の高い薬剤師が求められていることから、保健衛生の担い手としての薬剤師育成について要請をいたしました。四国の全薬学部が連携し、地域医療からの要望に応えた薬剤師育成や現職薬剤師の資質向上を図ることはこれら課題の解決への大きな力になると強い期待をしています。徳島県薬剤師会は積極的に地域の要望を伝えるとともに、大学側と協力して地域への還元を行っていきたくと考えています。この取組が本県のみならず我が国の保健・医療・福祉の向上に大きく貢献することを期待しています。

